

令和元年度 社会福祉法人新地町社会福祉協議会 事業報告書

社会福祉事業の健全な発達及び活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的に事業を進めてまいりました。

地域福祉の充実では、介護保険事業として居宅介護支援事業所・訪問介護事業所の運営を行ったほか、高齢者世帯やひとり暮らし高齢者の支援、老人クラブ活動育成、いきいきサロン活動助成、福祉関係団体の活動助成、心配ごと相談所事業等を実施しました。

在宅福祉サービスの推進では、民生児童委員協議会やボランティア団体と協働して実施しているひとり暮らし高齢者給食サービス事業のうち配食サービスについては、今年度から4月にも配食を開始したほか、身体障がい者福祉協会、手をつなぐ親の会等の事業への協力を行いました。

10月12日～13日にかけて当地方に最接近した台風19号の際には、民生児童委員が、事前に担当地区のひとり暮らし高齢者等への見回り・声かけ、飲料水配布などの支援を行いました。また、相馬市で家屋の浸水被害が発生したため市災害ボランティアセンターに職員を派遣しました。

東日本大震災により被災された方の支援については、まだ心身の健康面に不安をかかえている方もおり支援が必要な状況から、生活支援相談員による訪問活動を継続して実施しました。

高齢者が住み慣れた地域で支え合い安心して暮らせる地域づくりを目指し、生活支援体制整備事業に取り組みました。

1. 組織体制の充実と自主財源の確保

(1) 会議開催等

理事会4回、評議員会3回開催し、30件の議案について審議した。

監査会は事業部門及び経理部門を精査し、適正に処理されていることが確認された。

(2) 連携強化

行政区長、民生児童委員協議会及び福祉団体、ボランティア団体等との連携を密にし、組織の充実に努めた。

(3) 財源基盤の強化の推進

社会福祉協議会の事業運営は、町からの補助金と会員の会費によって行っている。行政区長のご協力をいただき、全戸会員を目指し募集にあたった。

① 会費

会員区分	金額	内 訳
一般会員	2,259,000円	1,000円×2,259戸
特別会員	320,000円	5,000円×46名、10,000円×3名、議会議員互助会
法人会員	700,000円	10,000円×56社、20,000円×1社、30,000円×4社
合 計	3,279,000円	

② 寄付金

種類	件数	金額
一般寄付	3	210,000円
ご遺志金	6	420,000円
災害義援金	0	0円
合 計	9	630,000円

2. 地域福祉の充実

(1) 地域福祉事業の推進

① 民生児童委員協議会やボランティア団体との協働活動の強化

ア 民生児童委員協議会の開催

民生児童委員並びに主任児童委員の職務を円滑に遂行するため、毎月、協議会例会を開催し、情報の共有と研修を行った。

●民生児童委員協議会の状況

民生児童委員	主任児童委員	合計
24人	2人	26人

●民生児童委員の活動状況

相談・支援	訪問	連絡調整	活動日数
176件	5,451回	3,408回	4,080日

イ 民生児童委員協議会との協働活動

高齢者の状況に応じたサービスの提供と、緊急時に対応するため民生児童委員からの「高齢者福祉票」によりその把握に努めた。

●高齢者福祉票の状況(対象者：70歳以上)

	H31.3.31 (世帯)	増減	R2.3.31 (世帯)
高齢者世帯	109	+ 5	114
ひとり暮らし高齢者世帯	127	+ 14	141
合 計	236	+ 19	255

ウ 台風19号の被害に伴うひとり暮らし高齢者等への支援（10月12日～13日にかけて最接近）

- ・ 事前に、担当地区のひとり暮らし高齢者等への見回り・声かけを実施
- ・ 10月14日、健康福祉課からの要請を受け、ひとり暮らし高齢者等の安否確認と飲料水の有無などについて調査
- ・ 10月16日、行政区長・地区長・民生委員の合同会議において町からの要請を受け、ひとり暮らし高齢者等に対し飲料水を配布

② 老人クラブ活動育成

高齢者の生きがいと健康づくりのために、地域の老人クラブの果たす役割は大きい。そこで、町老人クラブ連合会及び単位老人クラブが行う活動の充実と発展を図るため、老人クラブ指導員1名を配置して老人福祉の増進に努めた。

●単位老人クラブ数

14クラブ

●クラブ会員数

(単位：名)

平成31年3月31日			令和2年3月31日			増減
男	女	計	男	女	計	
255	356	611	255	360	615	+4

③ いきいきサロン活動助成

地域において参加者が主体となって自主的に運営し、仲間づくりの輪を広げたり、社会参加を促進したりしている地域のつどいの場（いきいきサロンの運営を支援することにより、地域福祉活動の推進を図った。

●いきいきサロンの状況

20団体 助成額474,000円

自主的に運営し、閉じこもりの防止と生きがいづくりに努めた。

開設地区

〔 沢口 鉄炮町 大山田 明地 中里 木崎 作田 上真弓 下真弓 岡 杉目
新地町 高齢者共同住宅 雁小屋 大戸浜 今泉 菅谷 高田 駒町 富倉 〕

④ 福祉関係団体の活動助成

福祉団体に対し、活動費の助成及び事務的援助を行った。

10団体 助成額230,000円

⑤ 社協だより「まごころ」の発行、ホームページの活用

社協だより「まごころ」を3回発行した。ホームページを用いた活動報告及び情報提供に努めた。

⑥ 生活資金に関する相談支援、貸付状況

○生活資金に関する相談支援 42件

○生活資金の貸付状況

・生活援助資金（新地町社会福祉協議会）

12件 405,000円

・生活福祉資金（福島県社会福祉協議会）

未償還残高 4件 2,095,182円（令和2年3月31日現在）

○生活困窮者自立支援事業（福島県社会福祉協議会）

支援調整会議 3回（対象者18名）

持ち回り会議 8回（対象者 9名）

⑦ 心配ごと相談所事業の推進

町民の日常生活上の悩みごと相談に応じ適切な助言を行うため、相談員8名の交代制により、相談所を毎月3回開設した。

相談内容も複雑多様化しているため、弁護士による無料相談会を3回開設した。

●心配ごと相談

相談者 4名 相談件数 4件（家族関係 近隣トラブル 金銭トラブル 苦情）

●弁護士無料相談会

相談者 5名 相談件数 5件（相続 金銭トラブル 土地）

(2) 生活支援体制整備事業の推進（新地町委託事業）

高齢者が住み慣れた地域で支え合い安心して暮らせる地域づくりを目指し、生活支援コーディネーターが町内各地で開催されている、いきいきサロンを訪問支援した。また、今年度はご近所支え合いを更に広げていくため、地域支え合いマップをもとに、モデル地域に第4行政区と第14行政区を選定し、グループに分かれての話し合い等を行った。

1月にはご近所支えあい交流会を開催し、生活支援コーディネーターが地域を訪問してみつけた支え合い活動（地域のお宝）の中から「いいね！グループ」4団体を顕彰した。

3月には、「ご近所支え合いガイドブック」を作成して全戸配布し、地域支え合いの「見える化」「見せる化」に取り組んだ。

3. 在宅福祉サービスの推進

(1) 高齢者福祉事業

① 介護保険制度に伴うサービスの提供

ア 居宅介護支援事業（ケアプランの作成）

要介護1～5	
実利用者数	52人
延べ取扱件数	455件

イ 訪問介護事業（身体介護・生活援助）

	要介護1～5		備 考
	実利用者数	延べ回数	
身体介護	8人	3, 298回	
生活援助	13人	927回	洗濯、清掃、買物等
身体生活	5人	287回	介護と家事の複合型

ウ 総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）

	要支援1～2		備 考
	実利用者数	延べ回数	
身体介護	0人	0回	
生活援助	19人	695回	洗濯、清掃、買物等

② ひとり暮らし高齢者給食サービス事業の実施

おおむね70歳以上のひとり暮らし高齢者で民生児童委員を通して高齢者福祉票が提出されている方を対象に、下記のとおり給食サービス事業を実施した。なお、今年度から4月の配食サービスを開始した。

ア 配食サービス

民生児童委員の協力により昼食を自宅に届けることにより、定期的かつ継続的な見守りを行った。

年間配食回数	36回（月3回）	2, 331食
--------	----------	---------

イ 集合サービス（ふれあいのつどい）

町バスや社協車両の送迎により保健センターに集合し、ゲームやボランティア団体等の協力を得て準備した昼食会で交流した。また、移動研修では買い物と外食を楽しんだ。

年間実施回数	7回	228食
--------	----	------

③ 高齢者世帯交流会の実施

実施日・場所 令和元年10月29日 ホテルグランド新地

参加者数 32名

内 容 東北各地の寄席やラジオで活躍されている落語家・六華亭遊花（ロウカイユカ）さんの落語と食事会

④ 福祉用具貸出事業

本会が有する物品の有効活用を図り、地域福祉の向上に資することを目的に福祉用具等の貸出を行った。

ア 介護福祉用具

車イス利用者数 10名

ギャッジベッド利用者数 11名

イ 地域福祉用具

テント、大なベセット、鉄板、臼・杵、レクリエーション用具等を、福祉用具が必要と認められる自治会、地域団体、サロン等に貸し出した。

⑤ 新地町要援護高齢者等外出支援サービス事業（新地町委託事業）

実利用者数	延べ利用回数
2名	12回

(2) 障がい者福祉事業

① 身体障がい者福祉協会、手をつなぐ親の会事業への協力

ア 新地町身体障がい者福祉協会

身体障がい者の福祉増進を図るため、レクリエーション交流会や県グラウンドゴルフ大会への参加など、身体障がい者福祉協会が実施する事業を支援した。

イ 新地町手をつなぐ親の会

心身障害児者を護り、その福祉を図るため、新地町手をつなぐ親の会のサロン活動、お楽しみ会等の実施を支援した。

4. 福祉ボランティアの町づくり事業の推進

(1) 奉仕活動啓発推進

① ボランティア団体の育成・支援

ボランティア連絡協議会事業への協力支援

② 情報、資料の提供、ボランティア活動保険への加入促進

ボランティア活動保険の加入状況

平成30年4月1日	平成31年4月1日	増減
541名	534名	△7名

5. 共同募金・日本赤十字活動の推進

(1) 共同募金、歳末助け合い運動及び募金活動の推進

① 共同募金、歳末助け合い運動の実績

募金項目	目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)
赤い羽根共同募金	1,390,000	1,390,789	100.06
歳末助け合い運動	1,180,000	1,184,501	100.38

② 歳末助け合い募金配分事業

●商品券での配分

配分対象	配付 件数	利用 枚数	金額 (円)	備考
(1) 在宅重度障害者で下記に該当する方 身体障害者手帳1・2級、療育手帳A、精神障害者保健福祉手帳1級	34	170	170,000	一人当5枚
(2) 準要保護児童生徒就学援助費を受給している世帯(保護者)	62	105	105,000	一人当2枚
(3) 高齢者のみの住民税非課税世帯(世帯全員が70歳以上)で民生児童委員を通じて高齢者福祉票を提出している世帯	5	10	10,000	一世帯2枚
(4) 在宅で要介護3以上の高齢者を介護している方(在宅介護支援者)	26	126	126,000	一人当5枚
(5) ひとり暮らし高齢者で民生児童委員を通じて高齢者福祉票を提出している世帯(70歳以上)	137	261	261,000	一世帯当2枚
合計	264	672	672,000	

●町内福祉施設への配分

7施設 配分額210,000円

(2) 赤十字思想の普及と社員増強運動の推進

●日本赤十字社費の実績

募金項目	目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)
日赤社費運動	1,189,000	1,715,500	144.28

6. 日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)

判断不十分な方への福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス・書類等の預かりサービス及び生活全般にわたる相談・助言の提供。

金銭管理・書類等の預かり	利用者なし
--------------	-------

7. 東日本大震災による被災者の支援

福島県社会福祉協議会より委託を受け、生活支援相談員2名を配置し、防災集団移転団地・災害公営住宅・自主再建世帯等への全戸訪問を定期的に行い、被災者の生活相談に応じた。必要に応じて、保健・福祉関係者及び行政との連携を図り状況把握に努め、孤立防止等の支援を行った。

生活支援相談員事務所を5月8日に、旧サポートセンター内から被災高齢者共同住宅B-1に移転した。

台風19号の被害による断水の際には、生活用水の確保に苦心していた新地町被災高齢者共同住宅のお年寄りに、しんち地場産市場めぐりやボランティアチームと生活支援相談員が協力して、町内の井戸水を使い生活水として配達した。

●見守り・相談支援世帯数

(令和2年3月31日現在)

	世帯数	うち65歳以上の世帯数	入居者数 (名)
公営住宅	3	1	12
災害公営住宅	117	65	242
避難先で自立再建した住宅・アパート	56	19	198
避難前にお住まいだった市町村の住宅・アパート	244	147	791
合計	420	232	1,243

8. 福祉サービスに関する苦情解決体制

福祉サービスに対する利用者の満足度を高め、利用者個人の権利擁護と適切な利用を支援するとともに、苦情に対して社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で円滑、円満な解決を推進し事業所への信頼や適正性の確保を図るため、委員会の開催や研修会に参加した。

●苦情受付等の状況

	受付件数	苦情内容(全体)
居宅介護支援事業	0件	0件
訪問介護事業	0件	0件
第三者委員会の開催	1回	現状報告・事例紹介
研修会の参加	1回	苦情受付担当者研修

9. その他

(1) 台風19号による被害に伴う相馬市災害ボランティアセンターへの職員派遣

10月 19日(土)・20日(日) 各3名

21日(月)～24日(木) 各1名

(2) 健康福祉まつりで炊き出し実演

11月23日、保健センター周辺施設を中心に開催された健康福祉まつりにおいて、災害時を想定した炊き出しの実演を行い、ハイゼックス袋を用いて米を炊飯し、カレーライスにして300食を無料で配付した。

※新地町社会福祉協議会が事務局を担当する団体

1. 老人クラブ連合会
2. 身体障がい者福祉協会
3. 手をつなぐ親の会
4. 戦没者遺族会
5. 民生児童委員協議会
6. ボランティア連絡協議会
7. 赤十字奉仕団
8. 日本赤十字社福島県支部新地町分区
9. 新地町共同募金委員会